

令和3年度 みらいホーム 事業報告書

1 総括

令和3年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けた1年となった。グループホーム内でも2名が新型コロナウイルスに感染し、家族の協力を得て一時帰宅するケースもあった。又、感染予防の為、通所先の利用停止が複数回あったことで、最初は混乱する入居者もいたが徐々に状況を受け入れていき、全般的には年間を通して安定して生活出来たと感じている。重点目標である個別支援計画に基づくPDCAサイクルの実施については、職員一人ひとりへの個別支援計画に基づく支援という考え方の浸透が不十分で、計画に基づいた支援方針の統一や評価、見直しが十分に行えなかった。次年度は、全職員で個別支援計画を共有し、PDCAサイクルの実施による利用者支援の充実を図りたい。

2 事業概要

- 1) 施設名 みらいホーム
(ユニット：アンダンテ、クローバー、藤ハウス、花の樹、カトレア)
- 2) 事業種別 共同生活援助（介護サービス包括型事業所）
- 3) 所在地 東京都小平市大沼町7-5-33
- 4) 経営主体 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 31名（令和4年3月31日現在）
(アンダンテ4名、クローバー7名、藤ハウス6名、花の樹7名、カトレア7名)
- 6) 利用現員 31名（令和4年3月31日現在）

ユニット	定員	現員
アンダンテ	4名	4名（内男性4名）
クローバー	7名	7名（内男性4名、女性3名）
藤ハウス	6名	6名（内男性6名）
花の樹	7名	7名（内男性5名、女性2名）
カトレア	7名	7名（内女性7名）

- 7) 法人認可年月日 平成14年12月13日
- 8) 事業開始年月日 平成15年1月1日
- 9) 職員 (令和4年3月31日)
管理者 1名
サービス管理責任者 2名（兼務：常勤換算2.0）
世話人 12名（常勤換算9.2）
生活支援員 25名（常勤換算14.1）

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現の支援
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望のもてる生活

- 4 基本方針
 - 1) 安定した日常生活の保障
 - 2) 入居者一人ひとりの主体的な生活の支援
 - 3) 入居者の相談支援
 - 4) 安心できる将来への支援

5 実施事業（活動内容）

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供

- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 入浴等生活行為の支援
- 7) その他日常生活に必要な支援

6 日 課

- | | | |
|---------|--------|-------------|
| 5時00分～ | 7時30分 | 起床 |
| 7時30分～ | 9時30分 | 通所事業所、会社へ出勤 |
| 15時40分～ | 17時00分 | 帰宅 |
| 16時00分～ | 20時30分 | 入浴 |
| 18時15分～ | 19時15分 | 夕食 |
| 20時00分～ | 22時00分 | 就寝 |

7 重点課題・目標に対する成果と課題

1) 活動

- (1) 入居者が安心して充実した生活を送れるよう支援する。
- ① 感染者が発生した際の対応マニュアルを作成する。
 - ② 入居者一人ひとりが生活の主体者であるということを基本に、個々に合わせた支援の充実を図る。
 - ③ 安心できる環境づくりを行う（感染症防止・空間・関係性・関わり方・健康管理など）

【成果と課題】

グループホームの入居者2名が新型コロナウイルスに感染し、この他5名の入居者が通っている通所先3か所でも感染者が出た。結果として10名の入居者が約2週間、通所先の閉鎖や利用停止、外出の自粛など生活に多くの制約を余儀なくされることになったが、日中の支援体制を確保し、7名の入居者が通所再開まで日中ホームで過ごすことができた。このことは、多くの入居者が初めての経験であり、一時的に混乱や不安感が大きくなった様子であったが、状況の説明を丁寧に行い、一緒に過ごしていくうちに徐々に安定化していったように感じた。感染者発生時はその都度保健所の指導を基に対応を行うと共に、その指導内容を整理し、感染症発生時の対応マニュアルを作成した（法人共通のマニュアルとして整備した）。

④事故防止を徹底する

- ・服薬管理方法等のマニュアルを遵守し、誤薬等の事故を防止する。
- ・無断外出行為のある利用者に対し、見守り及び建物内の施錠を徹底する。
- ・整理整頓や環境への配慮など転倒等によるけがの防止に努める。

【成果と課題】

誤薬事故が2件発生した（藤ハウス - 他の入居者との薬を取り違えた。カトレア - 朝・夕の薬を取り違えた）。2名の職員が服薬を確認するというマニュアルを遵守しなかったことが原因であったことから、再度、マニュアル遵守の徹底について全ユニットへ周知した。また、見守りを徹底することにより、令和2年度に引き続き、無断外出やけが等の事故は防止することができた。

(2) 高齢化に向け将来に備えたホームの機能を拡大する

- ① ホームが生活全般のコーディネートをしている7名の支援内容を検証したうえ、必要に応じて支援の見直しや拡充を行う。
- ② 令和2年度に着手した全入居者の家族が行っている支援とグループホームが行っている支援を整理した一覧表（通院、買い物、行政手続き、小遣い管理、散髪など）を完成させる。また、必要に応じて随時面談を行う。
- ③ ②の一覧表をもとに段階的に移行支援計画を作成する。

【成果と課題】

すでに、生活全般のコーディネートを行っている7名については、生活上の大きな変化はなく、

これまで通りの支援を継続した（通院同行、預り金管理、移動支援利用時の予約、行政等手続きの補助等）。又、その他の入居者についても、生活状況に大きな変化はみられず、家族とグループホームの支援の役割分担についても変更はなかった。計画通り全入居者の家族が行っている支援とグループホームが行っている支援を整理した一覧表（通院、買い物、行政手続きなど）を完成させたが、作成した一覧表を基にした支援の移行計画については、令和3年度についても着手できなかった。引き続き次年度の課題としたい。

(3) 個別支援計画の作成・評価の充実を図る

- ① 長期的な視点や生活全般の目標設定を計画に盛り込むとともに、支援の統一が図れるよう、より具体的な支援内容を盛り込んだ計画を作成する。
- ② 個別支援計画に基づいた支援を実施し、支援経過の丁寧な記録とそれに基づいた評価、見直しを実施する。

【成果と課題】

実際の支援に関連付けしやすいように、より具体的な支援計画を作成したが、職員の多くに支援目標が浸透されておらず、目標に沿った支援やその記録、評価が不十分となった。

(4) グループホームなどの住まいの拡充

新規グループホーム開設に向けた検討を行う（令和7年度以降開設見込）入居希望者や家族と面談を行い、グループホームでの生活事例の紹介や希望の聴取を行うことで生活イメージの共有を図る。

【成果と課題】

具体的な検討や相談者への対応は実施しなかった。

2) 人材育成

(1) 主たる職員の育成・指導

- ① 入居者の一人一人の生活全般におけるきめ細やかな支援を行う。
- ② 支援計画に基づいた支援を実施するとともに支援経過の記録を不備なく行う。
- ③ 支援及び記録内容等について、その他の職員と共有を図るとともに必要に応じて指導を行う。
- ④ その他の職員とコミュニケーションを図り勤務のコーディネートを行う。

【成果と課題】

全ユニットとも、日常の生活については入居者の意向を確認しながら丁寧な支援が行えている。また勤務のコーディネートについても臨機応変に実施できた。しかし、管理者の指導が十分に行われず、前述のように個別支援計画に基づくP D C Aサイクルの実施という点では不十分であった。

(2) その他の職員の育成・指導

- ① 支援計画に基づいた入居者支援を丁寧に行う。
- ② ケース記録に利用者の様子や支援経過を丁寧に記載し、支援の統一を図るとともに、支援技術のノウハウを蓄積する。

【成果と課題】

2) (1) に記載のとおり、P D C Aサイクルが不十分となり、支援の統一を図るまでには至らなかった。ケース記録については、今年度より時間軸にそって記載する書式に変更したことにより、以前と比較すると生活の流れ（帰ホーム、入浴、食事、就寝等）が分かりやすい記録となったが、前述のとおり、計画を意識した記録を蓄積することは不十分であった。

3) 経営管理

(1) 月次試算を正確に行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

月次試算表の分析により月々の経営状態の把握に努め、計画的に予算を執行した。

(2) 将来の建物修繕等に備え、家賃収入等から資金を計画的に積立てる。

【成果と課題】

法人所有の建物である、クローバーとカトレアについては、将来の建て替えや大規模修繕用に備え、以下の通り年度末に積立を実施した。

《クローバー》

	令和2年度累計積立額	令和3年度の積立額	合計
建て替え用資金	2,700,000 円	900,000 円	3,600,000 円
大規模修繕用資金	688,000 円	230,000 円	918,000 円

《カトレア》

	令和2年度累計積立額	令和3年度の積立額	合計
建て替え用資金	1,800,000 円	900,000 円	2,700,000 円
大規模修繕用資金	480,000 円	240,000 円	720,000 円

8、その他の成果と課題

1) 新規グループホームさかえホームとの連携・強化

令和3年4月に開設したさかえホーム（日中サービス支援型共同生活援助）の職員採用が計画通り進まず、職員間の業務交流等を行うなどの支援体制の重層化には至らなかった。

2) 市内グループホームとの連携・強化

新型コロナウイルス感染症防止のため、令和2年度に引き続き、隔月に1回開催する予定であったグループホーム連絡会は1度も実施しなかった。この他、日常で連絡を取り合う機会も殆どなかった。

3) バックアップ施設による支援

- アンダンテ - 入居者の健康管理等の相談を行った他、管理業務の補助を行った。
- 藤ハウス - 入居者の健康管理等の相談、管理業務の補助を行った他、月に1回夢風船の入浴設備での入浴支援を実施した。
- クローバー - 入居者の健康管理等の相談、管理業務の補助を行った他、月に1回程度、入居者の誕生日会等にあわせホームへの巡回を行った。
- 花の樹 - 入居者の健康管理等の相談を行った他、管理業務の補助を行った。
- カトレア - 入居者の健康管理等の相談を行った他、管理業務の補助を行った。

＜バックアップ施設＞

- ・ワークセンター夢の樹
- ・夢の樹みどり
- ・小平第二みどり作業所
- ・夢風船

4) 夜間等緊急時の対応

緊急時は、管理者と主たる職員のうちの2名の計3名が対応することとなっているが、夜間に緊急体制を要する事案は発生しなかった。

9、事故報告

- 1) 7-1) (1) ④に記載。

10、実施状況

- 1) サービス実施日数 期間 自：令和3年4月1日 至：令和4年3月31日
(1) アンダンテ 365日

(2) クローバー	365日
(3) 藤ハウス	365日
(4) 花の樹	365日
(5) カトレア	365日

11、利用状況

1) 入居者延人員	11,315人
2) 一日平均利用人員	22.9人

ユニット	入居者延人員	一日平均利用人員
アンダンテ	963人	2.6人
クローバー	2,184人	6.0人
藤ハウス	1,626人	4.5人
花の樹	1,710人	4.7人
カトレア	1,867人	5.1人
合計	8,350人	22.2人

12、入居者状況（令和4年3月31日現在）

1) 年齢

・20歳以上30歳未満	1名
・30歳以上40歳未満	12名
・40歳以上50歳未満	8名
・50歳以上	10名

ユニット	20代	30代	40代	50代
アンダンテ		1名	2名	1名
クローバー		2名		5名
藤ハウス		2名	4名	1名
花の樹		5名	名	1名
カトレア	1名	2名	3名	1名
合計	1名	12名	9名	9名

2) 障害の状況

(1) 障害の状況

愛の手帳2度	13名（内身障手帳所持 2名、精神保健手帳所持 1名）
愛の手帳3度	7名（内身障手帳所持 1名）
愛の手帳4度	6名（内精神保健手帳所持 1名）
身体障害者手帳1級	1名（内愛の手帳所持 1名）
身体障害者手帳2級	2名（内愛の手帳所持 2名）
精神保健手帳2級	3名（内愛の手帳所持 2名）

(2) 障害支援区分

・区分2	2名
・区分3	7名
・区分4	10名
・区分5	10名
・区分6	2名

ユニット	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
アンダンテ	1名	3名			
クローバー		1名	4名	2名	
藤ハウス		2名	2名	2名	
花の樹		1名	2名	3名	1名
カトレア	1名		2名	3名	1名
合計	2名	7名	10名	10名	2名

3) 居住状況

管内居住 24名 管外居住 7名

4) 性別

男性 19名 女性 12名

1.3 環境の整備

グループホーム内の美化及び整理整頓を行い、衛生保持、また転倒の防止に務めた。

1.4 健康管理

日常的に検温、手洗い、消毒等の基本的な感染対策を行った。また、入居者の日中活動先で新型コロナウイルスの陽性者が出た場合は、他の入居者及び家族等へ情報提供を行った他、入居者同士の時間差の食事、1回ごとの浴槽の湯の張替え等の感染対策を実施した。また、希望する職員及び利用者に新型コロナウイルス及びインフルエンザのワクチン集団接種を実施した。

食事作りについては、健康管理のための栄養バランスを意識するとともに日頃運動量が少ないことから肥満防止について特に注意を払った。一人は体重の改善が図られ、その他の入居者の肥満傾向は進んでいない。また、健康状態把握の一つとして、毎月1回の体重測定を実施した。このほか、風邪症状、皮膚疾患、歯科・眼科検診等、必要に応じて通院同行を行った。年間を通して、疾病等により、大きく体調を崩す入居者はなく、健康状態を維持することが出来た。

1.5 防災計画

災害時避難訓練を年2回実施した。3月に参加を予定していた当法人と小平手をつなぐ親の会との共催の防災訓練については、新型コロナウイルス感染防止のため規模を縮小した形での実施となり、今年度は不参加となった。

1.6 資金計画

新型コロナウイルス感染症防止の為の利用自粛及び1名の長期入院があったものの、利用率は新型コロナウイルス感染症流行前の令和元年度より増加した。

《利用率》

令和3年度実績	令和2年度実績	令和元年度実績
73.8%	73.6%	72.6%

《給付費等収入》

	令和3年度実績	令和2年度実績	令和元年度実績
訓練給付費収入	約7,556万円	約7,638万円	約7,274万円
都加算の収入	約2,808万円	約2,482万円	約2,514万円
総額	約10,364万円	約10,120万円	約9,788万円